



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

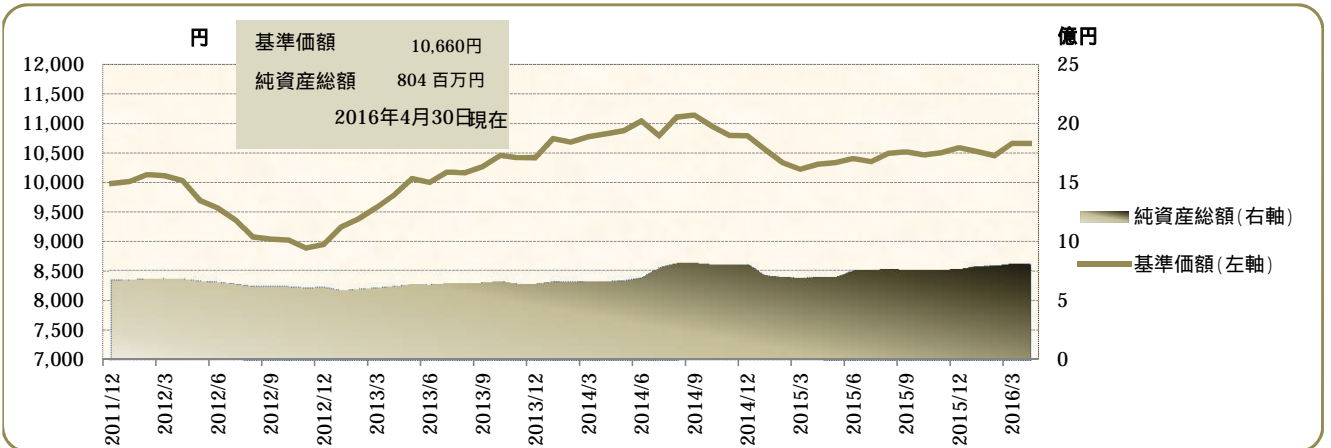
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年4月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

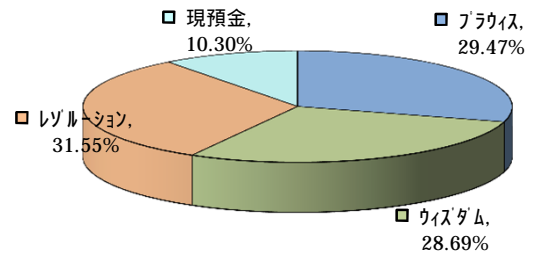
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%									0.63%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年4月30日	
基準価額:	10,660円	対前月比 -4円
純資産総額:	804百万円	対前月比 -4.3百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.29%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.82%
設定来	ファンド	6.60%
基準価額騰落率	TOPIX	75.21%
	日経平均	87.05%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年4月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%									1.20%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%									-1.63%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%									6.30%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プライム	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

4月の株式相場は、日経平均で0.55%下落の16,666.05円、TOPIXで0.49%下落の1,340.55ptとなりました。日銀短観や熊本地震、日銀金融政策決定会合などのイベントが多かったため、ボラティリティが高く上下に大きく動きましたが、月間では2カ月ぶりの下落でした。

上旬は、日銀短観を受けて企業業績への悪化懸念が台頭したことや原油安を背景にリスクオフムードが広がり大きく下落しました。ドル円も107円台と2014年10月以来の水準まで円高が進み、自動車などが為替感度の高い銘柄を中心に下落し日経平均は一時16,000円割れとなりました。

中旬は、米国株高や円安を背景に上旬の下げを埋める展開となりました。14日以降に発生した熊本地震を受けてサプライチェーンへの懸念などから大きく下落する局面もあったものの、全体としては堅調に推移しました。

下旬は、日銀金融政策決定会合前後で激しく動く展開となりました。22日には一部海外通信社による「日銀が金融機関への貸し出しにマイナス金利の適用を検討している」との報道を好感し大きく円安・株高が進み、ドル円は111円台後半、日経平均は一時2月2日以来の17,500円台をつけました。しかし、28日の日銀金融政策決定会合において、追加緩和を織り込んでいた市場にとっては金融政策が現状維持となったことがネガティブサプライズとなったため、一気に

円高・株安が進みました。ドル円は108円台まで下落、日経平均も結局は3月末の株価水準を下回って取引を終えました。

需給面では、海外投資家が4カ月ぶりに買い越しとなった一方、個人投資家が4カ月ぶりの売り越しとなりました。信託銀行は5カ月連続の買い越しでした。

セクター別騰落率では、石油・石炭製品、ガラス・土石製品、水産・農林、鉄鋼が上位となり、電気・ガス、証券・商品先物取引、輸送用機器、小売が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.32兆円と、3月から微増となりました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスはTOPIXをアンダーパフォームしましたが、東証マザーズ指数は10.9%上昇と3月に続いて大幅な上昇となりました。

ファクター面では、月間ではバリューファクターがプラスとなるリターンリバーサル相場となりましたが、最終週に限ってはモメンタム相場となり、それまでとは真逆のファクター傾向となって取引を終えています。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイズ】

<ファンド運用状況>

4月の運用成績はJPYクラスで+0.73%となりました。原油価格の反発を受けて、資源関連株を中心にリターン・リバーサルの動きが強まったことや、REIT、銀行、紙パルプセクターで割安・割高の修正があったことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、化学、紙パルプ、REIT、石油、電力ガスセクターでプラスとなり、小売り、食品、電機セクターでマイナスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

5月の株式市場はもみ合いの相場展開を想定します。4月末の急落によりTOPIXのバリュエーション面での割安感がありますが、円高傾向の継続により輸出関連企業を中心に業績の不透明感が強く、上値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

<ファンド運用状況>

4月の運用成績はJPY-Fクラスで+0.50%でした。今月は原油価格が堅調に推移したこともあり、素材株や銀行株のリターンリバーサルが見られましたが、素材、金融、公益セクター内での価格訂正によりプラス収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで日本ペイントHD(4612)、スルガ銀行(8358)、ショートポジションで東邦瓦斯(9533)、三菱自動車(7211)がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

今月の株式市場は横ばいを予想します。国内企業の決算開示では、今年度の企業業績が製造業中心に厳しい見通しが示されていることや、引き続き円高傾向が継続していることもあり、上値の重い相場展開を予想します。しかしながら、伊勢志摩サミット開催が迫り政府の政策期待も根強く、下値も限定的と考えます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

小型株市場は、先月までの推移から一転し、月初からほぼ一本調子で割負ける展開となり、月末にやや戻す程度で終わりました。また、為替反転とならなかった事からも、為替感度の高い銘柄の割安傾向は続きました。

ファンドとして、これまで逃げ場としていたグロース小型銘柄や内需の割安銘柄も売られるなど、月中には厳しい局面もありましたが、個別銘柄の寄与によりマイナスを限定的な水準に抑えることが出来ました。

高バリュエーション銘柄のロングを一部売却していますが、傾向的なポートフォリオに大きな変化はありません。

市場全体が下げる中で、個別のファンダメンタル要因により上昇となったロング銘柄が、プラス寄与の中心となりました。一方、内需グロース小型株のロングがマイナス寄与となりました。

全体としてショートのプラス寄与が小さく、パフォーマンスの確保に至りませんでした。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

外部環境の不透明感は当面持続する見込みであり、円高リスクも解消されないと思われ、本決算に併せて提示される新年度の会社予想も保守的なものが予想されます。一方で、あまりに悲観的な見通しの解消も企業によっては進む可能性も高く、決算内容の慎重な吟味を続けます。

個別性のあるスモールキャップのロング部分で、引き続きパフォーマンスの確保を狙い、新たな期待銘柄への入替を進めて行きます。新しい魅力的なサブカテゴリーが見だしにくい状況であり、ポジションの大幅なキャラクター変更は予定しません。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメンツ・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgfund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。

当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。

当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。